

令和6年度 一般社団法人 埼玉県校外教育協会委嘱
校外教育研究紀要

研究主題

「地域との連携する活動を通し、地域に貢献できる
生き生きとした生徒の育成」



伊奈町立南中学校

埼玉県北足立郡伊奈町小室3001

TEL 048-723-1117

FAX 048-722-4304

1 はじめに

本校は、昭和 63 年、新興住宅地の開発等に対応すべく伊奈中学校から分離独立した開校 37 年目の学校である。南小学校全区と小室小学校区一部を通学区としている。近年生徒数は減少傾向にあり、現在は、特別支援学級 2 学級、1 学年 2 学級、2 学年 2 学級・3 学年 3 学級の計 9 学級編成である。校舎は、モダンでユニークな設計がなされており、多様な教育活動が展開できる



素晴らしい造りとなっている。学校周辺環境は豊かな自然に囲まれ、校地内も生徒会や P T A の奉仕活動として緑化・花いっぱい活動が展開されており、校門から玄関に到るまで一年を通して草花が絶えることはない。

生徒は純朴で屈託なく、学習に前向きである。保護者は学校への関心が高く、教育活動に対して理解があり協力的である。教職員は保護者や地域の信託に応えるため、迅速・丁寧・着実に教育実践を重ねている。本校の特色の一つとして研究活動があり、数々の委嘱を受け発表してきている。

2 研究の概要

(1) 研究テーマ及びテーマ設定理由

テーマ：「地域との連携する活動を通し、地域に貢献できる
生き生きとした生徒の育成」

設定理由：本校の生徒は、地域の方と触れ合う機会が減少し、様々な人と積極的に関わる力が身に付いていない。生徒会と学校運営協議会の座談会を年に 2 回程度設けており、中でも、地域の人と関わりたい気持ちがあることが分かった。そこで、学校運営協議会委員の協力を得ながら、地域行事への積極的な参加機会を設けるなどして、生徒のコミュニケーション能力を育成したいと考え設定した。



(2) 研究計画

○研究のねらい

地域行事への参加や地域の学校との交流を通して地域の方等と交流する機会を増やし、生徒の人間関係構築力の向上を図る。

○スケジュール

4月 生徒の意識調査の実施

→生徒が地域にどのような貢献ができるか、地域の課題をどう解決していききたいかを把握し、これからの体験や奉仕活動を模索し、実行に向けて準備する。(生徒会本部から全校への呼びかけ、企画・立案)

5-6月 学校応援団とともに、ボランティア活動(花の定植)

7-8月 地域祭りボランティアへ参加(吹奏楽部の演奏)

地域清掃ボランティアへ参加(伊奈まつり後片付け等)

9月 地域合同防災訓練の実施(全学年)

学校応援団とともに、ボランティア活動(除草)

10月 学校応援団とともに、ボランティア活動(美化作業)

南保育所の看板製作(美術部)

11月 社会体験チャレンジ事業・職場体験(2年生)

学校運営協議会において、運営協議会委員と生徒会本部役員との座談会を開催

県立上尾かしの木特別支援学校との交流(3年生)

12月 施設等へのクリスマスコンサート(吹奏楽部)

2月 生徒の意識調査の実施

→研究成果の確認、取りまとめ、来年度の教育活動の検討(PDCA)

3月 研究紀要の作成



○期待される効果

- ・地域への参加が積極的になり、多様な人間関係を良好に築く力がつく。
- ・生徒の地域への参加意識の向上と、地域の人々の思いを実現させる企画力が身に付く。



3 具体的な取組

① 学校応援団との協働活動



生徒会本部が、キャッチフレーズ「ちょボラ」(ちょっとしたボランティアの略称)のもと、今年度は花苗の定植、除草作業を全校に呼びかけ、学校応援団の方々との協働活動を行った。今後、ゴミ片付けや地域の公園の清掃等にも発展して取り組む予定である。

②小中連携の取組（教育相談部会、生徒指導部会・出前授業・部活動体験等）

夏季休業中に、学区内の南小学校教員との連携を図り、生徒理解を深めるために教育相談部会と生徒指導部会を実施した。また、中1ギャップ解消に向けての手立ての一つとして、第3学期に中学校教員を小学校へ派遣して出前授業の実施や小学校児童が来校して教室訪問や部活動見学を行う体験活動により、円滑な接続を図るための取組を行った。



③社会体験チャレンジ事業：近隣の事業所等に協力を得ながら、生徒は24か所の公共施設や事業所に分散して、2日間の職業体験を行った。生徒はしっかりとした態度で臨み、地域の方々とふれあいながら様々な職業体験をすることができ、将来の目標を立てるなどキャリア教育の一環としても、学びの多い貴重な体験となった。



④Japan-Nepal Project 2024：令和4年度より実施しているネパールとの交流会を全学年で行った。日本との時差は、-3時間15分あるカトマンズのGEMS校とZOOMを用いてオンラインで英語での交流では、互いの国の紹介や簡単なゲームを行いコミュニケーションを図ることで国際交流の意識が高まった。

⑤ 地域祭りボランティアへの参加（吹奏楽部の演奏）、地域清掃ボランティア（伊奈まつり）への参加：ボランティアの依頼や募集に積極的に取り組む姿が見られた。本校の吹奏楽部は、地域の祭りでの演奏をはじめ、日本薬科大学での「ふれあいコンサート」での演奏や町ショッピングモールでの演奏、年度末には保護者・地域の方をお招きしてコンサートを開催している。



- ⑥ 学校運営協議会での座談会：テーマ「南中学校をよりよくするために」のもと座談会を開催した。校則改定後の様子や通学路の安全等について、共通理解を図るとともに熟議を通して、今後の取組等を考える貴重な時間となった。



- ⑦ 本校美術部と園児の共同制作で完成した作品を南保育所フェンスに設置した。(夏休みに美術部員が保育所を訪問し、園児の手形や足形で下地を描くお手伝いをし、美術室で仕上げたもの)。コロナ禍で使用し、今は不要になったアクリルのパーティションを再利用した看板は、日の光を浴びると美しく見える。また、駐輪場の壁には、親子で楽しく写真撮影できるスポットになる幕絵を設置した。



4 成果と課題

(1) 研究の成果

生徒は、学区内だけでなく多くの方々と関わることができた。生徒へのアンケート調査からは、貴重な体験を通して学ぶ機会をもつとともに、自らの「自己効力感」が高まっていると感じていることが分かった。

今後も、PDCA サイクルの視点に立ち、生徒会を中心とした企画・立案と全校への呼びかけ、学校運営協議会委員の協力を得ながら、地域行事への積極的な参加機会を設けるなどして、「地域に貢献できる生き生きとした生徒の育成」に努めていく。

(2) 今後の課題

計画の時点で、学校側と地域の方々とのスケジュールリングが必須であり、天候等により、急遽、延期や中止となった場合まで含めると、代替案を用意する必要がある。また、作業に伴い手作業だけでなく機械・道具類を使用することもあり、物理的に不足している物（マメトラ等の耕運機や鎌等の道具類）を準備する必要がある。今後も、「段取りと後始末」をサポートしながら、生徒の主体的な活動に結び付き、学校・家庭・地域のWell-Beingにつながる取組となるよう創意工夫に努めていく。